

令和 7 年度高槻わかば幼稚園学校自己評価結果公表シート

1、本園の教育目標

夢のある楽しい活動や体育活動などを通して豊かな心を育て、脳や感覚、基礎的な運動能力の発達を図り、将来の学習に対応できる十分な力を養うことを本園の教育の目的とする。

2、本年度重点的に取り組む目標

女性の社会進出によって働く母親が当たり前になっている。その結果、専業主婦家庭はますます減少しているが、それに加えて止まらない少子化によって、いわゆる公園デビューをしようと思っても子どもの遊び相手も子育てについて相談する大人がいない状況がますます深刻化している。幼稚園においては保護者との、また保護者同士のコミュニケーションを大切にすることとその研究を進める。

今年度から満 3 歳児保育を行い、より低年齢の幼児の遊びと育ちについて研究する。

また当園の教職員全員を対象とした「マナー研修」を行うことにより対保護者は当然として職員間でも相手を思いやる態度を醸成する。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み
1) 教育課程の編成と共通理解	1) 保育の 5 領域を偏らずに行い、時流に流されない、幼稚園本来の幼稚園らしい保育を行う。総合活動等により楽しく伸びやかな当園らしさに重点を置いた取り組みを行った。また、サークルタイムを様々な保育の取り組みの中で行い、自ら考え学ぶ姿勢を育む活動を行った。
2) 教職員個々の資質を高める取り組み	当園がモットーとして掲げる楽しい保育の中での学びを更に深める努力を行う。
3) 子どもたちの情報の共有	2) マナーに関する研修を行い、保護者とのコミュニケーションを深める。 3) 昨今の傾向として保護者同士の情報の共有が希薄で、親子ともども孤立する状況がみられる。電話などでできるだけこまめに情報をとり、必要に応じて学年、全園で情報を共有した。
4) 子どもたちの自発性や知力を高める取り組み	4) 積極的にサークルタイムを導入しクラスやグループごとの話し合いを行った。指導者はファシリテーターをして見通しを持ちながらも過度に介入しないように注意して取り組んだ。
5) 保護者との連携	図鑑やインターネットなどの ICT 機器も積極的に導入した。 5) 個々の園児についてこまめにやり取りをし子どもの育ちについて共通理解ができる

6) 防犯対策	ように努めた。
7) 施設の安全対策	6) 防犯訓練は職員間で年に複数回行い防犯意識とともに実践的な対応も意識して行った。
8) ICT 化の試み	子どもたちにも積極的に話して意識を高めた。
9) 未就園児教室	7) 園内の遊具の安全点検を複数回行った。
	8) 登降園や預かり保育等の園児管理に「brain」を導入し、指導要録も電算化して教員の負担軽減を図った。
	9) 園外に所有する施設「ラビーハウス」において今年度も未就園児教室を行った。園内の行事に左右されない未就園児に対する取り組みができた。
10) 満 3 歳児クラス	10) 保護者の保育ニーズがより低年齢化していることに鑑み今年度より満 3 歳児クラスを新設した。これにより、より年齢月齢に応じた保育を心掛ける。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

総合活動やサークルタイムの活動によって幼児期に特徴的で大切な遊びを通した伸びやかな育ちと学校教育に向けてそれに対応できる能力を深める教育を行った。一定の成果は出ているように感じる。

子どもに限らず教職員同士も互いに肯定的に評価してチームワークを醸成するようにした。職員間でまとまりがみられていると思う。

5、今後取り組むべき課題

引き続き幼児期の育ちと小学校以降の学校教育に結び付く活動との整合性を見出すこと。

6、財務状況について

公認会計士による監査の結果、適正に運営されていると認められる。

7、学校関係者評価

学校関係者評価・主な意見

- ・人材確保に努力している様子が見えた。
- ・仕方がないことかも知れませんが若い先生が多く活気がある反面、バランスからいうともう少し経験のある先生がいた方がよいかもしれない。
- ・両園ともに安全面では十分な監視カメラの設置、施錠など対策が組まれている。
- ・園の方針もあり良し悪しではないが、預かり保育の時間が少し短いように感じる。
- ・財務などの運営面は適切であり、特に指摘すべき事項はありません。